

Fun for Life

vol. 10

ピーアーク コーポレートブック



特集：
新ハッソー！で新ハッピー！！を

P対談：若者の力が社会を変える
NPOカタリバ 代表理事 今村久美氏

新ハッソー!で 新ハッピー!!を!



~「また来たい」へのFunチャレンジ~



私たちが目指すのは、お客様に笑顔になつていただけるようなFunを日々つくり、たくさんの「ありがとう」をいただくこと。そしてもっと町や地域におけるかけがえのない存在に、頼りになる存在へ進化すること——。

お客様一人ひとりや地域社会との繋がりをさらに深め、しっかりと耕していくために、私たちは日々Funについて探求しながら、それぞれのポジションで具体的なFunづくりに取り組んでいます。

ピーアークのありたい姿、「地域(まち)の楽しい存在」「遊びの公園」を目指し、業界に「石を投じられるような」「新ハッ

▶ふあん学園案内Contents

Funシラバス

お客様・地域・スタッフが笑顔になる
さまざまなFunづくりについて、ご紹介します。

ゼミ紹介

「一客再来の創造」を研究する「商品開発チーム」をご紹介します。
新しい発想で世の中を楽しくする「新ハッソー!新ハッピー!!」とは?

Fun学則

Fun学園で学ぶ生徒は常に、一歩先の「楽しい」を考えるべし。
未来のFunの中に寄り添うパチンコ像を描いてみました!

新キャンパス構想

創業の地、竹の塚に完成した「ピーくんプラザ」に込めた想いとは。
新たなFunが生み出される“新キャンパス”になぞらえてご紹介します。

ソー!新ハッピー!!」を探求する取組み。
仲間たちとともに知恵を出し合い共有し、過去や常識を超えるための挑戦の連続は、さながら切磋琢磨の中でいまでもにない新しい知を発見していく、学びの園にも例えられるかもしれません。

今回は、お客様に「また来たい(期待!)」と思っていただくためのFunづくりへの取り組みや、思いを紹介するため、ピーくんがふあん学園へご案内いたします!





Funシラバス

私たちの仕事は、みんなを笑顔にするための「Fun」を日々作っていくこと。お客様との絆、社会との共生、スタッフが活き活きと働けること…。1つひとつは小さな取り組みですが、その積み重ねが大きな信頼へ繋がるのだと信じ、今日も随所でFunづくりを行っています。

拡がる絆、繋がる絆 「Pガーデン」

今、ピーアークの敷地内にPガーデンを作るお店が急増しています。季節感や景観はもちろんですが、お花の話でお客様と盛り上がり、今まで話したことのなかった近隣の方と新たなコミュニケーションが生まれるなど、絆の拡がりを感じています。



社会との絆 「地域イベント参加」

地域に愛され、共生・共栄していくことはピーアークの存在価値のひとつです。地域と楽しい時間を過ごすFun for the Areaには積極的に参加し、地域との絆を紡いでいます。



コミュニケーションづくり 「スタッフボード、オリジナル瓦版」

ピーアークにしか出来ないおもてなしは、単にパチンコやスロットを楽しむ場所を超え、感動創造レジャーを提供することと考えています。スタッフの人となりや店舗の情報を伝えるコミュニケーションボードやスタッフ新聞は、コミュニケーションの幅を広げてくれる大切なツールで、各店がお客様の層やニーズに合わせて独自のコミュニケーションを築いています。



ありがとうマインドの醸成 「Funエピソード、ありがとうカード」

おもてなしの対価であるお客様からの「ありがとう」は、私たちにとって一番の宝物。頂いたありがとうを集めたFunエピソードは、取り組み4年目で10万件を超えました。最近では、このマインドがさらに広がり、スタッフからお客様へ、また、スタッフ同士でのありがとう交換が根付いてきています。



ピーくんステーションが目指すもの 「外国人にもPachinkoを!」

ピーくんステーションが目指すのは、「新たな遊びの提案」。現在は、日本を訪れる外国人観光客にパチンコの楽しさを体感してもらうスペースとしてトライアルを始めました。多国語パンフレットやマルチリンガルのスタッフを配置したり、観光客向けガイドブックにパチンコの楽しみ方を掲載するなどの取り組みが進んでいます。



快適空間 「充実したアメニティグッズ」

お客様にとってより快適な空間を目指し、各店で様々な工夫が行われています。「便利」だけでなく「楽しい」「うれしい」と感じて頂けるような、Fun for Lifeな快適性を追求しています。



楽しみながら環境改善 「環境コンテスト」

お客様をお迎えするにふさわしく、且つピーアークらしい店内環境を作る取組みに、コンテストの要素を取り入れながら楽しく環境改善を行っている(株)ピーアーク埼玉。利便性や季節に合った装飾などを、お客様の笑顔を想像しながら楽しく行っています。



知恵の共有 「その先Room」

(株)ピーアーク東京で新たな取り組みが始まっています。個々のおもてなしの成功事例を共有し、ブラッシュアップしながら価値へと繋げていく、その名も「その先Room」です。普段、お客様と一番近い位置で接するナビさん(アルバイトスタッフ)を中心に、毎回熱のこもった議論が交わされています。



かつてのお客様へ恩返し 「福祉施設へのパチンコ台提供」

以前、店休日を利用して老人ホームの皆さんをお招きした際、「昔はよく遊んだけど、今は来られないから」とパチンコを懐かしむ声がたくさんあったことから、複数の施設へパチンコ台を寄贈しています。入居者に楽しんでいただけるのはもちろん、ホールで使われなくなった遊技台を再び甦らせることができる点では、環境問題にも貢献していると考えます。





ゼミ紹介

「商品開発チーム」

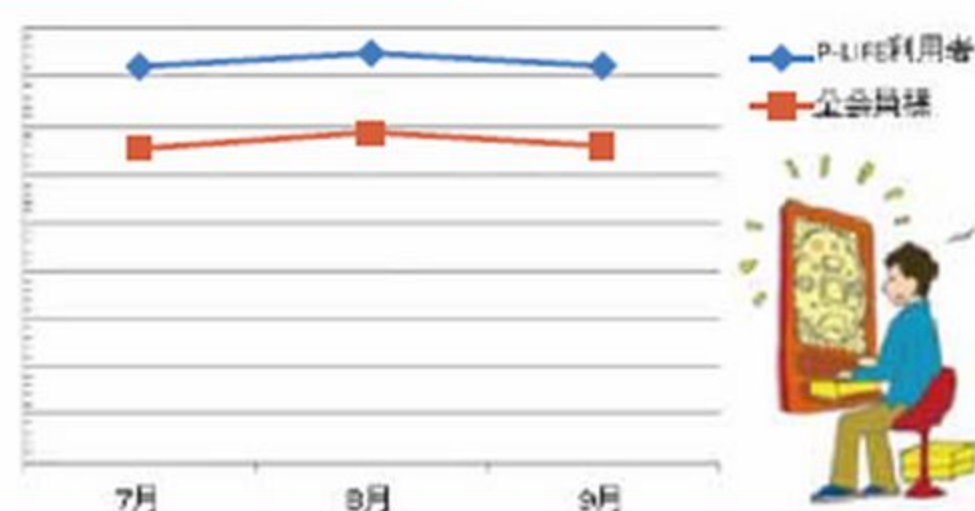
「一客再来を創造すること」をミッションに今年4月に設けられたセクションです。お客様に「また来たい(期待)」と思っていただけるような営業戦略への挑戦に、営業推進部などが行う営業マネジメントとは異なる新たな角度から商品やサービス、仕組みを構築し、トライアルを続けながらパチンコのその先を日々探っています。また、オールピーアークチャレンジ企画「その先商品化ラボ」にエントリーされるアイデアの実現化を模索し、新しい発想で世の中を楽しくする「新ハッソー!新ハッピー!!」を提案しています。

オリジナルアプリ P-LIFE

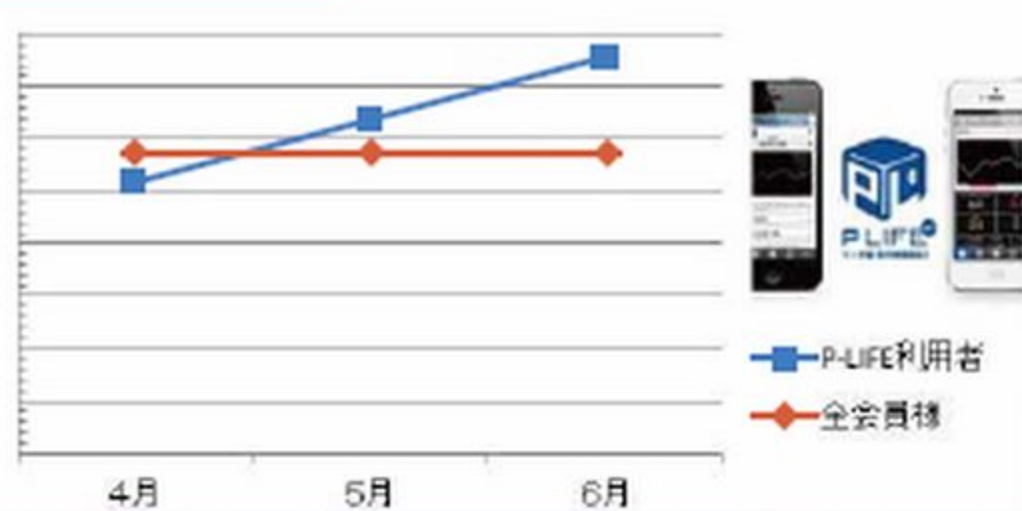


ピーアークでの遊技をもっと楽しくする新商品「P-LIFE」。スマートフォンがあれば何時でもどこでも大当たり情報や自分の遊技履歴がチェック出来たり、予算管理支援システムで計画的に遊ぶことが出来る機能が搭載されており、それぞれで自身に必要なコンテンツを使いながら楽しむ姿がホールでも見受けられます。データを見ながらお客様自身が考えて遊技することで納得感も生まれ、その効果は、来店回数や遊技時間にも表れています。

遊技時間の平均値比較



来店回数の比較





プレイサポートシステム プレサポ君

大当たり回数やスランプグラフを確認するデータ表示機はこれまでもありましたが、会員カードと連動させることで、個人の遊技履歴まで確認できる新商品「プレサポ君」が今夏登場しました。日付毎、遊技台毎に自分だけのデータを簡単に閲覧でき、遊びの幅が広がっています。遊技履歴は印字することも出来るため、友人同士で見せ合ったり、履歴を見ながらスタッフと一緒に台選びを楽しんだりコミュニケーションツールとしての機能も見え始めています。

サポート1
自分の遊技履歴を
簡単閲覧！



サポート3
台選びの際の
参考資料に最適！



サポート2
会員カード1枚で
簡単印刷！



その先商品化ラボ

LABORATORY

発案者による、実現の可能性を探るプレゼンが先日行われました。興味深いアイデアが出揃い、関係部署から出たアドバイスを元にさらなる具体案へと、創造・熱意で挑戦しています。



※役員投票1位の発案者には、来年の海外研修を贈呈。

長寿のおじいちゃんに
秘訣を聞きました。
適度なドキドキが良いそうです。



健

康法
適度な刺激で
脳活性

買い物途中の休憩はココ。
料理に詳しいあのスタッフにも
会えるしね!



と

りあえず
顔出ししちゃう
ピーアーク

Fun学則

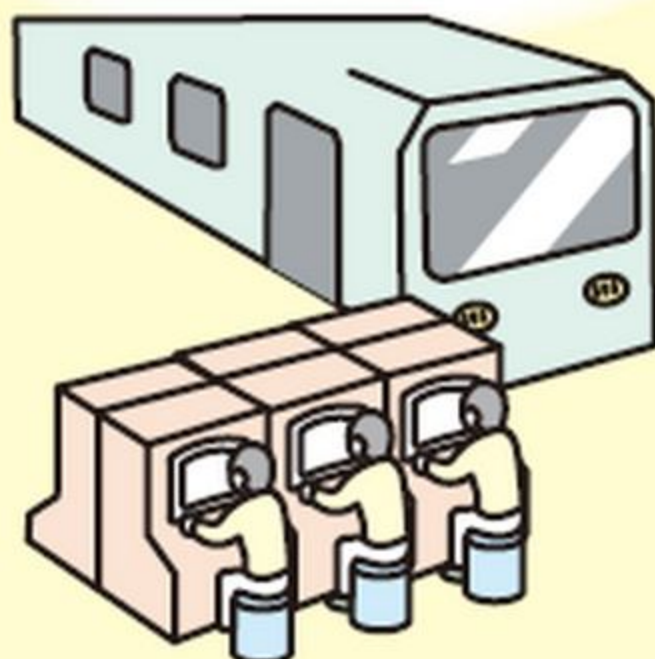
日本だものこれが一番。
じっくり遊べるわ!



靴

脱いで
座布団敷いて
一勝負

電車の待ち時間にホームでひと遊び!
先に来るのは電車か? 大当たりか?
ドキドキ。



待

ってます
次の電車か
大当たり

ドキドキの効果が証明。
女性の美容の定番に!



美

肌には
保湿と食事と
ドキドキを

臨場感たっぷり。
画面から魚が飛び出てきた!
思わず周りをキョロキョロ。



パ

チンコモ
3Dメガネ
新体験

部長も社員もチャンスは平等。
ドキドキの共有で
チーム力アップ!



打

ち解ける
ドキドキ共有
歓迎会

リーチと同時に
ピーくんカットイン演出が!
これはアツイ!



演

出に
ピーくん登場
ガッツだぜ!

未来の「楽しいコト・嬉しいコト」の中に
パチンコが寄り添っている場面を描いてみよ!

一歩先の「楽しい」を常に考えるべし!

あなたはスロット、私はパチンコ。
別の席で遊んでも
仲間同士会話できるから便利！



カ

メラ越し
質問された これ確変？

ひよんなことから
二人同時プレイで遊びました。
それがきっかけです。



き

っかけは
一緒にそろえた スリーセブン

景品を自宅でじっくり選べ、
お届けも自宅に。



帰

つたら
家族と選ぼう 戦利品

外国人に聞きました。
日本で味わいたいものだそうです。



日

本なら
すし・天ぷらと パチンコだ！

このつぶやき凄くわかる。
あのお店で会えるかも！



ア

ノ台を
つぶやく人に 会いにきた

パチンコホールに着いたら、
ちょうどショーがスタート！
楽しみが増えました。



楽

しみは
パチンコ合間の ショータイム

便利になりました。
このカード1枚で全部使えます。



1

枚で
改札コンビニ パチンコも

まるで森の中のような空気。
心も体もリフレッシュ！



深

呼吸
綺麗な空気は ピーアーク

こんにちは！
出張パチンコ店です。
本日は、ご自宅で遊びましょう！



あ

の人に
ドキドキ体験 届けよう

新キャンパス構想



ピーくんPlaza

竹の塚で
つどう、たべる、
たのしむ、くつろぐ。



安らぎと憩いの場 ピーくんPlaza

1階には、風を感じるエントランス。

木の感触を踏みしめながら進むその先には、

香り豊かなコーヒーショップ。

朝のひととき、毎日の情報交換。

買い物の合間に、ちょっと寄り道。

約束していないけど、きっとあそこにいるわ！

その隣には、いくつになっても

ドキドキ・ワクワクできる街ナカバちんこ。

いつも笑顔のおじいちゃん。真剣な表情はここでしか？

おばあちゃんは今日も休憩スペースで話しこんでいるね。

2階にあがると、子どもたちの笑い声が聞こえる。

家族みんなで、回転ずし。

おじいちゃんもエレベーターがあるから安心だね。

小道を挟んだ向こうにはもう一つの建物。

なにやら楽しげな音と

子どもたちのはしゃぐ声が聞こえる。

そこはみんな大好きなゲームパーク。

可愛いぬいぐるみがたくさんあるね！

屋上では、大きなピーくんがごあいさつ。

みなさん「いってらっしゃい」

「こんにちは」「おかえりなさい」



今日も笑顔で「ありがとう！」
ここは、ピーパーク創業の地。
あれから47年。
これからも「ありがとう」を
ここで伝えたい。



Change the World

力が 変える

ピーアークホールディングス株式会社
代表取締役社長

庄司 正英



心に火を点けるような仕事を

庄司 今村さんとの出会いは鳥田塾ですね。若手のソーシャルリーダーである今村さんのお話を聞いて、今回の対談をとても楽しみにしていました。私の父も集団就職で山形から東京に出て苦勞して事業を起した人間ですが、大学に行けなかったことがずっと心残りだったので、庄司奨学会を作って、山形の進学したい学生を支援していました。私もその意志を引き継ぎ、現在は小学校等を使う備品を毎年寄付しています。ですから、被災地の高校生プロジェクト含め、カタリバさんの「学生」「学び」「未来」にスポットを当てたところに非常に共感と感動を覚えました。まずは、カタリバを立ち上げた経緯を教えてくださいませんか？

今村 2001年にNPOとしてスタートしました。当時のNPOはボランティアの集まりみたいなイメージが強かったですが、私は「社会のため」という意識より、どうすればこれを「仕事」にできるかという事を考えていました。私たちより若い世代は、満たされた環境の中で生まれ、学校へ行き、食事もできるという毎日の中で、何か頑張ろうとか、目標を持つとか、新しく作り出そうという意欲がなかなか湧かないというのが世代の特徴と感じてました。私自身も高校時代は遊んでばかりいたような気がしますが、大学時代、私を触発させる様々な出会いがありました。例えば留学で海外に行って色々な経験をしてきた人と会って、「自分にはこんな目標が

P対談

カタリバ 今村久美氏 × 庄司正英

Youth Energy

若者の 社会を

NPO カタリバ 代表理事

今村 久美氏

あるんだ」とか「今はこれが解決すべき世の中の問題なんだ」と目標や強い意欲を持っていて、人は、置かれる環境によつて、そういう事が起きる人と起きない人がいるんだという事に気づきました。日本では、多くの若者がなんとなく高校へ行き、目標を持つどころか、ある意味「やらされ感」を持ちながら学校生活を送る人も多い。一方、高校を卒業して社会人になると、社会の中で行き場を失って、ドロップアウトしてしまう若者もたくさんいます。どうしたらこれを解決できるのか、若者の心に火をつけるような仕事をしたという想いと、私自身の現体験もきっかけになってNPOを立ち上げました。

庄司 そのNPO活動期間に東日本大震災が起きたんですね。

今村 それまでの約10年間は、教科書では教えられない勉強、どうやって生きていくのかという悩みや苦悩を聞き、「意欲を引き出す」機会として、職場体験や対話の機会などを通し、学校の外側から学校教育をサポートするということをしてやってきました。しかし、震災が起き、意欲を引き出す以前に、私たちに前提的に保証されていた、学ぶ場所、住む家、鉛筆や毎日の食事、という環境自体が崩れてしまったんです。私にとっても衝撃的で、現地に何度も足を運びましたが、そんな中で被災地の子どもたちから学んだことがあります。それは、人の意欲というものは、大きな事件や自分の中のトラブル、あった環境がなくなった経験によつて、ものすごく引き出されるものだという事です。その経験



から、あった環境がなくなったということが必要となった心のケア・日常支援と同時に、リーダーシップを育成し、ピンチをチャンスに変える教育授業をやっていききたいというのが現在のカタリバの趣旨です。

意欲の着火点は 世代間で異なる

庄司 若者の意欲といえば、私は東京ニュービジネス協議会の副会長で、ベンチャー起業し株式公開を目指す若き経営者たちを応援するIPO大賞委員会を担当しています。先日そこで表彰されたのは実に好対照な2人でした。ルーキー部門で表彰されたのは最年少

25歳でIPOを果たした(株)リブセンスの村上さん。彼の祖父は起業家で、幼少期には電通鬼十則を暗記させられるなど、起業家としてのDNAを染み込まれたらしく、小学校の頃から「経営者になるんだ」と決意、大学時代にビジネスコンテストで優勝して会社を設立し、求人新しいモデルを創りました。対して、上場後4年を経過した中での優秀企業を表彰するグロース部門は(株)デジタルハーツの宮澤さんでした。彼の実家はなんと我々と同じバチンコ店。しかも、経営が上手くいかず借金取りに追われるという幼い頃の苦い経験から、「経営者にだけは絶対にならない」とずっと思っていたそうです。本人曰く、オタク社会に身をおき、オタク連中の中で育ってきたそうですが、そんな彼らにも得意技があつて、それらを活かせばオタクやニートも社会の役に立てると一念発起して起こしたのが、ゲームのバグを見つける事業、まさにオタク&ニート集団のスペシャリティーが發揮されています。その延長線上にあるビジネスチャンスは、サイバー攻撃をも防御できる才能だと我々も応援しています。彼らにはとてつもない意欲を感じますが、我々の世代がいう、「とにかく何かサクセスストーリーを作るんだ」というハングリーな意欲と、今の20代30代が持っている意欲の方程式は全く違うんだと痛切に感じましたね。そういう意味でも、今村さんがソーシャル

リーダーと

してもっと若い

世代、高校生や中学生の

意欲をいかに引き出すのかと

いうのは非常に興味があります。

今、急成長している東南アジアに行つて

感じるのは、若い世代が皆、「自分はこの国の

将来の役に立ちたい」と輝く目で未来を語る姿です。

今の日本の若者が失ったものを感じましたね。ところで、

今どきの高校生に対して「意欲」を気付かせる一番の

ポイントは何なのでしょう？

今村 今、宮城県の女川と、岩手県の大槌で、小学生から高校生を対象に授業をしています。意欲を持たせるために一番重要なのは、今の現実をしっかりと受け止めさせるということだと思います。被災地という圧倒的不利な環境で生活していることは確かですが、しばらくその状況は変わりません。ですから、今の現実をちゃんと受け止め、それを変えていくのは行政でも大人たちでもなく自分自身なんだということをきちんと自覚させることが大切だと思います。被災地全体に言えることなのですが、土地の利権や所有者の補償の問題、また、町がほとんど浸水地になつてしまった状態で、どこに家を建てればいいのかということが課題になっています。難しい判断が求め

られる中、行政職員の方は何日もかけ視察を繰り返して、苦しい中本当に大変な調整をされていますが、住民の方々の会合などに行くと、ほとんどの大人が「どうしてくれるんだ」というか、「役場が悪い」「行政はもっとしっかりしないのか」というスタンスの発言が多いですね。その大人たちの発言に育てられているので、子どもたちも発言することが、「住民の声をちゃんと行政に届けるためにアンケート取ります」や、「自分たちは仮設校舎で苦しい生活をしているのに、役所は良いところに建てていてずるいです」とかそういうものが多いんです。それも間違っていないかもしれませんが、自分たちは何かできないのか、例えば、孤独死の問題が言われている中で、1人で住むお年寄りのために出来ることはないのか、などということをも自分たちで考えさせるプログラムを行っています。まずは現実をちゃんと受け入れさせて、今始められることはないのか、いつまでも行政を待たなきゃダメなのか、自分たちが出来ることは何かということを取り組んでいます。

庄司 震災は誰のせいでもないですし、現実を超えるにはそれを受け入れること、そしてその先に何を見るかなんです。ピーアークの被災地応援活動で出会う子どもたちの、「被災地のために役に立つことをやりたい」という声、あれは感動ですね。これを超えよう、自分の力を活かそうというのはカタリバさんの考えと

同一軸だと思うのですが、そこにたどり着くまでが大変ですね。様々な悲しみ、現実を超えて、心折れずに次の自分の成すべきことを見つけ出す、そういう意味で、活動資金の支援はもちろん必要ですが、心の支援はそれ以上に必要なのかもしれませんね。

見えますね。ただ、今足りないのは、現地で長期的に支援に参画できる「人」だと感じます。私たちも全国に求人を出して募集をしていますが、現地のオフィスでは私たちも未だに避難所のような生活ですし、お給料もそんなにたくさん出せるわけではありません。そんな状態の中で、東京で今まで自分が積んできたキャリアを

現実を受け入れさせて

いま自分たちが出来ることは何かを

考えられるようにしたい



手放してまで来てくれる人はそう多くはありません。個人的には、現地での活動は確実にステップアップになると思っていて、向こうで過酷な生活を送って帰ってきたら必ずリーダーとしての素質が身に付くと思っていますが、わざわざそんな過酷な状況に身を置こうという人はなかなかいないですね。本当は所得水準をもっと上げることが必要ですが、私たちの実力では、15万円からの募集になってしまいます。その中でも良い人材を採用して生徒たちとめぐり合わせないといけない、誰でも良い訳ではないですから。

企業とNPO連携の模索

庄司 実際にカタリバへのお手伝いをする必要があるのはやはり教育関係ですか？

今村 学校の先生ではないけれど、生徒のボトルネックになっていることに気づいて対話しながら、日常的に教えることは勉強ですが、保健室機能も必要です。自宅訪問して家庭状況を見ることもしています。今子どもたちに起きていることを、行政と家庭と連携して一つひとつ理解していくことが必要なので、企業で働いた経験のある人は非常に頼りになります。今カタリバでも(株)リクルートから転職してきた人などが活躍しています。

庄司 企業に一定期間その人財支援などを頼むのは

どうですか？

今村 是非そうしたいのですが、1年間社員さんを貸していただきたいというのは可能なのでしょうか？

庄司 ミッションが明確ならば応援してくれる企業もあるでしょう。当社も震災支援として義援金募玉や東北物産フェアをやってきましたが、これらの活動はやはり被災地に寄り添って、自分たちの持ち味を生かしながら継続していくことが大切だと痛感します。被災地で、ある活動のお手伝いで運動会もやりましたがものすごく盛り上がりました。被災地こそエンターテインメントは必要で、当社のキャラクターピーくんが行っただけで大騒ぎ、子どもたちの感動がぎゅっと凝縮されるのを感じ、社員も自分たちの活動がこんな役に立つんだというのを感じて帰ってきます。当社も今後どういう形で支援していくかを模索しているところですし、まして今の話のように「継続的」に企業スタンスの人材が必要ということならば支援企業と連携すべきだと思いますね。

今村 実は以前、別の企業様との打ち合わせの際に同じような話になり、「例えばうつ病や、一時的に心が折れてしまった人の癒しの機会として、そういう方を送るのはどうか」と提案されたことがあります。ただ、現地は多分それ以上にすごく心が折れる場所だと、大変申し訳ありませんが、そのような方には務まら



被災地の放課後学校「コラボ・スクール」で勉強している様子



「高校生マイプロジェクト」ミーティング写真



大槌臨学舎卒業式でのカタリ場



ボランティアで訪れた支援企業の社員の方へガイド

ないと思いますと申し上げました。やはり、子どもたちを支えるということに強い信念をもって挑まないといけないので、どちらかといえばちゃんとリーダーシップを取ってくれる人でないと困ると、その時はうまく利害調整ができずに、このプランは良くないなと諦めていました。

庄司 確かに、実際に転職して15万の給料、そこだけを見るとそうなるのかもしれませんが、それ以上のミッションや活動の意義を考えれば、給金以上の意義はあります。仕事と給与はそのミッションでイコールではありません。たしか南極越冬隊の募集広告は「生命の危険ありの薄給だが、成し得れば世界を変える」でした。これには多くの応募があったそうです。

今村 当団体でも、例えば「年収は800万でした」という人が「2年間（と期間を決めて）やります」というような人は活躍してくれますが、「旅が好きだから」とかそういう方はやはり、やっていけないですね。なので、まずミッションに共感してもらって、自身もそのミッションのために努力ができる人であればすごくありがたいです。

庄司 私たちも「with youプロジェクト」の延長上で、具体的な支援を検討しましょう。

今村 被災地に限らず、カタリバの支援プログラムは

たくさんあります。たとえば首都圏の高校への出張ボランティアなどもあります。教員免許をお持ちの方であれば、教育実習の経験もありでしょうし、塾講師などの経験をお持ちの社員ならば生徒に対するいろいろなアドバイスの経験もありでしょう。被災地に入っている活動に限定することなく、採用担当の方や管理職の方のCSR活動を通じた人材育成の一環として長期的にご支援いただけたらありがたいですね。

庄司 教員免許や塾講師のアルバイト経験がある社員も結構いますから。人材の採用チームは毎年若手のメンバーを社内の人選するので、彼らの人材育成のプログラムの一環としてスタートすることを考えましょう。

今村 では、人事部の皆様はカタリバの活動について説明会をさせていただいて、ご推薦いただいた人の中から調整できると嬉しいですし、ありがとうございます。
庄司 いろんな形で応援できると思います。さきほどのデジタルハーツさんのように彼らを社会の役に立たせてあげたいと出発した形は広がりが期待できますね。

今村 私たちより若い世代の中で、社会貢献に興味がある人がすごく増えているというのは、自分が何かの役に立っている実感がないうまま大人になってしまったので、自分の存在価値を確認できることが喜びに

なるということだと思います。「就職活動で、「入社したらCSR活動やりたい」なんて面接で言ったらどこにも就職できないよ」と言っていますが、良いことをやっている企業に行きたいとみんな言ってますね。何を目的に何の仕事をするのか、選んだがる若者が増えている感じはします。

活動の中心が若者であることが

皆の希望につながる

庄司 我々のビジネスも、お客様のお役に立っていると感じるときが一番の喜びです。人の役に立つ、誰かに感謝される、自分の力で何かを変えられた、これが一番大きなインセンティブ・推進力になるわけで、それは、一時の大儲けよりも価値があります。with youのまた新たな道が見えてきた感じます。今展開されている「高校生マイプロジェクト」も色々な活動があるようですが、そのあたりも紹介していただけますか？

今村 私たちの現場では、日常的には「学び」を提供しています。生徒たちが一番時間を注がなければならぬのは学校の宿題であつたり基礎学力の向上ですが、それと同時に、地域で当事者意識をもって自分たちが何かを変えていくんだというスタンスを持てるようなプロジェクトを、高校生を中心に行つて

人の役に立つ、誰かに感謝される、
自力で何かを変える、
これが一番の推進力になる

います。1年間を通して色々なイベントを、日常的な地域活動と両立させるようなことをやっています。

庄司 被災地の地域活動との両立とは具体的にはどういうことですか？

今村 一人ひとりが町の課題を解決するため、

自分で考えたプロジェクトを実行する取り組みで、今は大槌町で12人の子どもたちがそれぞれ自分のプロジェクトを模索しています。すごく些細なことでも良いので、身の回りで気になったことで、これなら自分もできるんじゃないかなということ





最初はひたすら探させました。例えば、写真が好きな生徒は、被災地で一番悲しいのは津波で思い出が流されてしまったこと。特におじいちゃんおばあちゃん、これから誰かに写真を撮ってもらうことはなかなかないかもしれない、だから私が一つでもたくさん笑顔の写真を撮って、3か月で1000人の笑顔を集めたら写真集にしてプレゼントする、というプロジェクトを立ち上げました。もちろんそこにはお金が必要なので、プロジェクトの趣旨をウェブ上で表明させて寄付を募ります。先日ニュースでも取り上げていただき、賛同してくれた方が小口で1000円、5000円と寄付してくれました。他には、津波の

教訓を刻む石碑を、あえて4年に一度建て替えるなければならない木碑にしよう、4年ごとにどんなメッセージを刻むかを町の人全員で考えて立て直すというプロジェクトもあります。今一番寄付が集まっているのは、「Starry Night」大槌」というプロジェクトです。いつからか大槌町は被災地と呼ばれるようになってしまった私は悲しい、だけど電気がなくて家も減ったけれど、大槌町は自然がとても豊かで星もキレイ、虫だって鳥だっていっぱいいる、その自然いっぱいの大槌町というイメージを変えたい。だから、寄付を募って望遠鏡を買い、みんなに星空案内をすることで町の良さを知ってもらおうというプロジェクトです。このように、生徒が寄付を集めて寄付者に報告とお礼をする、そして私たちがサポートしながらプロフェッショナルな方にもメンターに入ってもらったとき、ゴールまでたどり着く、ということをやっています。

庄司 自分の手で実現できたというのは、次への自信にもつながりますね。

今村 今の課題は、どのようにプロジェクトの効果測定をしていくのかという点です。これがたいへん難しい。通常の基礎学力のようにテストの点数で成長を判断できないわけです。様々なマーケティング理論などを調べながら勉強しているのですが、いま面白いなと思っているのはキャズム理論という考え方

です。商品のユーザーがあるセグメントの16%を越えた時、それは市場が見逃せない数字になり、その次に感度が高い34%の人たちを巻き込むのは時間の問題となるようです。これを被災地に置き換えると、現状の住民の多くが行政依存なわけですが、自らの力で変えていくんだと動き出す人が住民の16%を越えたら、その町の意識が変わるんじゃないかと思うわけです。だから私たちとしては、大槌町の高校生1学年約100人のうち、例えば16%の生徒が何かしらチャレンジをしていけば、その先にいる生徒たちを動かしていけるのではないかと。それは大人にとっても勇気になるし、あんな先輩になりたいという後輩もできてくるというひとつの文化が作れるかもしれない。彼らが大人になった時に、公共心と利他性を持ち、主体的に社会づくりに取り組む生徒がマスの存在になるかもしれない。そんなことを目的にしてみたりしています。夢は広がりますが、現実的には現場に、生徒の個人情報保護をはじめとする様々な問題を色々一つひとつクリアしながら取り組んでいる状態ですが...

庄司 いいですね。自己実現も社会との関わりや他人への影響度がないのは全く魅力的じゃないです



ね。ですから、どうやって自分がやりたいことと社会のニーズを結びつけていくかは非常に大事ですね。ただ被災地ではひとつのアクションがものすごく効果的でしょう。お年寄りがやることなく引き籠っているという話も聞きますが、若い世代がチャレンジしているというのは活力になるんじゃないですかね。

今村 いざ現地に住んでみると高齢化がすごく進んでいるのが分かります。高校を卒業すると多くの生徒が町外に出ていきます。今、大槌町で私たちが住んでいる地域も平均年齢63歳ですが、ここでも高齢化の問題に取り組む生徒がいます。その生徒は一人ひとりお年寄りを訪ねながら、こういうイベントをやるから参加してくださいと回ってニーズを汲み取りながら、同時にFacebookで発信してもっといい案はないかと呼びかけます。すると、世界中の人がアドバイスをくれる。

またそれを高校生が町の自治会に持ってかえって説明すると、今度は隣近所の大人が動いてくれる。高校生が頑張っているからと、行政が呼びかけても出てこない人たちが、一緒にひつつみ汁を作ったりパーティーをしたりします。先にお伝えした「4年に一度建て替える木碑を作ろう」という話には、「俺らは4年後どうなってるか分からないからな」なんて怪訝な声もありましたが、あるおじいちゃんが「やるんじゃないか」と言ってくれ、みんなで動き出しました。地域の木材店も工務店もみんなで動いてくれたわけですが、その中心にいるのが高校生であるということが、みんなの希望になって本当に良い動きだと感じていました。

庄司 一つひとつプロジェクトを見つけて活動につなげていくというのは大事ですね。今村さんのように地域に根付き、新しい視点を持ってくる活動は広がりがありそうです。

今村 需要と供給がうまく合致しなかったり、地域とうまくコミュニケーションが取れなかったり、求められる支援は地域によって様々で、現地に入り込むのはなかなか大変なのは事実です。現地に住み、森羅万象分かった状態で色んなことを発想していければ一番ですが、そこまではリスクを取れないという方が多いので、1年目で多くの団体が撤退して、2年目には

ほとんど撤退して、外部支援団体では2〜3団体しか残っていません。小さな自治会的NPOはありますが、外部の団体が入りづらいというのはあるのかもしれない。

いまは地域が進化する チャンスだと捉えてみる

庄司 子どもたちが「活動を通じて地域の役に立とう」という意欲をどんどん高めていけば景色も変わっていくと思いますけどね。下を向いて、国が、行政が何かしてくれるという雰囲気を変えないと前に進まないですよ。

今村 被災地の多くの自治体は、「50年後の日本を映し出している」と言われています。高齢化で過疎が進む中で、仮に人口が8000万人になったときに起きるであろう弊害は、まさに今被災地で起きている問題そのものです。それらは避けられない問題ですが、その時にリーダーが、この被災地から何人かでも出ていたら希望になると思います。ハリケーンカトリナによってニューオーリンズの町が壊滅的な被害を受けたとき、ベンチャーキャピタル系の企業が起業しやすいよう法整備がなされたことで、たくさんの方々がノウハウが町に入ってきて、1次産業にしか携わったことのなかった現地の人も色々なソーシャルビジネスに触れる

ことで起業家が増えたそうです。これはすごく参考になると思っていて、三陸は水産業の町ですが、水産業も進化が求められる中、この町から何か始められるのではないかと感じています。

庄司 ある意味、地域がイノベートされて進化するチャンスですね。中には、元通りにしてくれという人もいますが、そこが現地でもジレンマになってくるかもしれませんね。そういう意味でも、子どもたちの気持ちに折れずに前に進んでいくというのは非常に大事で、ピーアークの得意技であるエンターテインメントも、その手助けができるかもしれません。活動の中でエンターテインメント項目とか、アミューズメントに関連することはありますか？

今村 アミューズメントとは少し違うかもしれませんが、町の体育館を借りて、小学生に日常的に運動の機会を作る活動を行っています。現地では、日常的に歩いたり運動する機会が極端に減ってしまったために子どもの運動能力の低下や肥満が問題になっている地域もあります。

庄司 なんて日常的に歩かなくなったのですか？
今村 福島で言えば、校庭など、外で遊べなくなっていることも大きいですね。福島以外の場所、例えば私たちが活動する大槌町や女川町でも、仮設住宅が遠いところにできて通学に不便だったり、復興工事で

危ないという理由もあり、今までは自転車や徒歩で通学していた多くの生徒がバス通学になっています。下校バスの時間も決まっているので、放課後に校庭で遊ぶこともできなくなり、仮設住宅に移ったことでもかつてのコミュニティもバラバラになり、友達同士で遊ぶ光景も減っています。肥満と運動能力の低下は課題のひとつで、試験的に勉強の時間の後に運動の時間を作ろうということ企画して2〜3回やってみましたが、子どもたちの反応も上々で、そういうところに、ゲストでピーくんが来たり、楽しいことをやってもらえると印象に残って、「次はいつ来るのかな」というのがモチベーションになるかもしれないですね。

庄司 楽しそうですね、早速考えてみましょう。企業のCSRとNPOの関わりについても色々ご教授いただけました。では最後に今村さんの「Fun for Life」を教えてくださいませんか？

今村 今は、出産して、子育てをすることが最高に楽しい。毎日違う表情を見せてくれる彼との生活から、辛いこともあります。でも多くの学びと喜びを得ています。

庄司 本日は貴重なお時間ありがとうございました。
(敬称略)



キッカケが生まれる、ナナメの関係
KATARIBA

Profile

今村 久美氏

NPOカタリバ代表理事

慶應義塾大学在学中の2001年、任意団体NPOカタリバを設立し、高校生のためのキャリアプログラム「カタリ場」を開始。2006年には法人格を取得し、全国約600の高校、約120,000人の高校生に「カタリ場」を提供。2011年度は東日本大震災を受け、被災地域の放課後学校「コラボ・スクール」を発案。被災地の子どもに対する継続的な支援を行っている。2008年「日経ウーマンオブザイヤー」受賞。2009年度内閣府「女性のチャレンジ賞」受賞。慶應義塾大学非常勤講師。



10/23
(WED)

竹ノ塚駅前

ピーくんPlaza



グランドオープン!

竹の塚で

つどう

たべる

たのしむ

くつろぐ

竹ノ塚駅前に食と遊びの広場「ピーくんPlaza」が誕生しました。「美味しい」と「楽しい」の融合で、大人も子どもも笑顔になれるFun空間を目指しました。

グランドオープンから連日、コーヒーショップは主婦層を中心に、回転寿司店はファミリーに絶大な支持をいただき、第3弾・第4弾オープンへの弾みをつけています。



Fun for Life



通信

「町の楽しい存在になる」。ピーアークのソーシャルミッションを体現する店舗がまたひとつ誕生しました。街との絆を紡ぐ「ピーくんPlaza(プラザ)」のFun for Lifeが始まっています。

～ Top Massage ～

パチンコ創業の地で
次代のビジネスモデルに挑む

新政権発足後、アベノミクスによる景気回復の期待感で景況感は最悪の状態から持ち直し、企業業績が回復、株式市場も安定、雇用環境も上向きつつあります。

また新しい時代到来の予兆としては、「2020年東京オリンピック」開催や、「IR(インテグレート・リゾート)」推進法案などカジノリゾート実現に向けた動きが活発化してまいりました。いよいよ3本目の矢である成長戦略の始動が、デフレ不況を終焉させるのでしょうか。

さて、このような環境の中「レジャー白書2013」の発表によると、パチンコの市場規模は20兆710億円と前年比+0.9%の増加となりました。これは、震災後の影響で落ち込んだ前年からの反動によるものですが、参加人口は1100万人、前年比13%減となりました。このように減少を続けるパチンコファンへの対応として、「1円パチンコ」など低料金で遊べる営業スタイルを採用する店舗が増加し、今や全国のパチンコホールの約8割にまで拡大いたしました。参加実態ではお客様の高齢化だけでなく、若者の娯楽観がパーソナルモビリティの登場で大きく変化し、参加率の低下となって表れています。「いつでもどこでもつながって」遊ぶことが、「ワク

11/3(日)

カリロード商店街 カリン収穫祭で Fun for the Area!

ピーくんPlazaのあるカリロード商店街の「カリン収穫祭」は地元の方々が毎年楽しみにしている秋祭りです。毎年ソーラン節で参加していますが、今年はピーくんPlazaのFunを街に広めるため、ジャンボパチンコなどのイベントをプラスして参加させていただきました。たくさんの来場者を楽しんでいただき、随所にFun for the Areaが感じられる1日となりました。

ソーラン節



ジャンボパチンコ



第1弾オープン ドトールコーヒー



第2弾オープン スシロー



第3弾オープン SEGA



ワク・ドキドキする非日常型のレジャー市場に影響を与えていることは事実でしょう。遊びのパラダイムシフトが大きなうねりの中で進行している今、需要創造型の新たなビジネスモデルによるチャレンジこそが業界の閉塞感を打破する唯一の手段と考えます。

当社は今年、パチンコ創業の地「竹の塚」で新しいビジネスモデルにチャレンジします。「つどう・たべる・たのしむ・くつろぐ」を施設コンセプトとした「ピーくんPlaza」は、コーヒーショップ、回転ずしチェーン、ゲームセンター、パチンコを組み込んだ複合商業施設。「外食」「娯楽」「コミュニティ」の融合でベストなシナジーを追求します。また創業の地で再び「業界の常識」に挑み、未来のパチンコモデルの創造をミッションとした「ピーアーキブピーくんプラザ（総台数112台）」が間もなくグランドオープンします。スモールコンパクトな店舗では、「Pachinko Love Again」楽しかったパチンコにもう一度タッチしていただくためのチャレンジが、業界を取り巻く閉塞感を打ち破る「楔」となることにご期待ください。ステークホルダーの皆様方におかれましては引き続きのご支援、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

ピーアーキホールディングス株式会社
代表取締役社長 庄司 正英

社団法人日本遊技関連事業協会（日遊協）

今年6月、庄司副社長が日遊協会長に就任しました。でも、そういえば日遊協ってどんな団体なんだろう?? 気になってきたので早速お話を聞きに行ってきました!



ピーくんの
業界ZOOM



会長 庄司孝輝

社団法人日本遊技関連事業協会(日遊協)



— 庄司会長、日遊協ってどんな団体なんですか? —

日遊協は、パチンコ業界の「健全化」「近代化」「適正化」そして「社会的地位の向上」を目指し平成元年に設立された唯一の業界横断組織です。業界には、メーカー団体、ホール団体、設備会社の団体など多くの団体がありますが、横断的な組織はありませんでした。しかし、業界全体を良くしていくことや、意見・提案を各方面に伝えていくこと、そして何より世間の皆様に理解してもらうためには業界全体でまとめる必要があります。日遊協は業界をまとめ、社会に信頼され支持されるパチンコ・パチスロ産業を築くための活動を展開しています。

— なるほど、具体的にどんな活動をしているんですか? —

今、最優先の課題は、パチンコ・パチスロ減少への対策です。日遊協では、遊技産業活性化プロジェクトとして、「ファン拡大」「コスト構造改革」「健全化」の3つの柱で取り組んでいます。これらは、遊技産業全体での対応が必要なので、まずはホール団体、遊技機メーカー団体と協議を始めています。その一つとして来年度の4月からファン拡大のキャンペーンを開始する予定です。

これとは別に、日遊協独自の活動内容としては、例えばパチンコを身近に感じていただくための「エッセー・絵手紙コンクール」。(写真①②) 回数を追うごとに参加者も増えています。業界への率直な意見を知るために、全国の会員ホールの協力を得て、お客様を対象に、「ファンアンケート調査」を毎年2,000名以上の規模で実施しています。

また、「パチンコ&パチスロフェスタ」では、新しい遊技機や、「あったらいいな! 機能」を搭載した遊技機を試験展示します。フェスタは業界向けと一般ファン向けに計2日間行われ、一般ファン向けはユーザーからの意見を募ったり新しいファンを増やすための試みとなっています。(写真③④⑤)

業界の次世代リーダー育成を狙った勉強会も定期的に開催しています。知識面だけでなく、「業界の未来」をテーマに企業を超えたチームでブレゼンをするワークショップ(写真⑥)の実施で他社や異業種の人たちと交流し、業界としての繋がりも醸造しています。

環境問題に対しては、今年の夏も2007年対比15%削減の節電目標を掲げ、業界全体で取り組みました。日遊協の20周年記念事業では、未来の子どもたちに自然の大切さを知ってもらうため、埼玉県嵐山町の町有地5.22ヘクタール

④ ヘッドフォン搭載
コンセプト機



⑤ 目押し練習機能搭載
コンセプト機



③ パチンコ&パチスロフェスタ



① コンクールポスター



⑦ 植林活動



⑥ 次世代リーダ育成の
マネジメント・カレッジ風景



② コンクール授賞式

😊 庄司会長お忙しい中、ありがとうございました。
パチンコファンを増やすためにぼくもがんばります！

パチンコは、身近で手軽な娯楽として愛されてきました。それが今、大衆娯楽としての役割から離れてしまっています。一方で、スマートフォンのような存在は娯楽をより身近なものにしていますし、カジノのような新たな遊びも出来つつあります。パチンコをもっと気軽に楽しく遊んでもらうためには機械を作るメーカーだけでなく、ホールだけでも出来ません。それぞれの枠組みを超えて、業界全体で立ち向かわなくてはなりません。2020年には東京オリンピックも決まりました。日本だけでなく世界に日本のレジャーを広めていけるチャンスです。その船頭の役割を担っているのが日遊協だと思っています。

😊 なるほど、どれも自分一人では難しそうだけど、業界みんながやれば変わっていくそうですね！
—では、最後に今後の意気込みをお願いします！

東日本大震災の折は、各支部単位で波状的にボランティアが派遣され、がれきの撤去作業などを行いました。
また、大津波で壊滅した海岸防災林を復活させるため、「日遊協仙台の森」と名付けて、仙台市周辺の海岸地帯で植林活動をしています。
(写真⑦)



Fun for Life



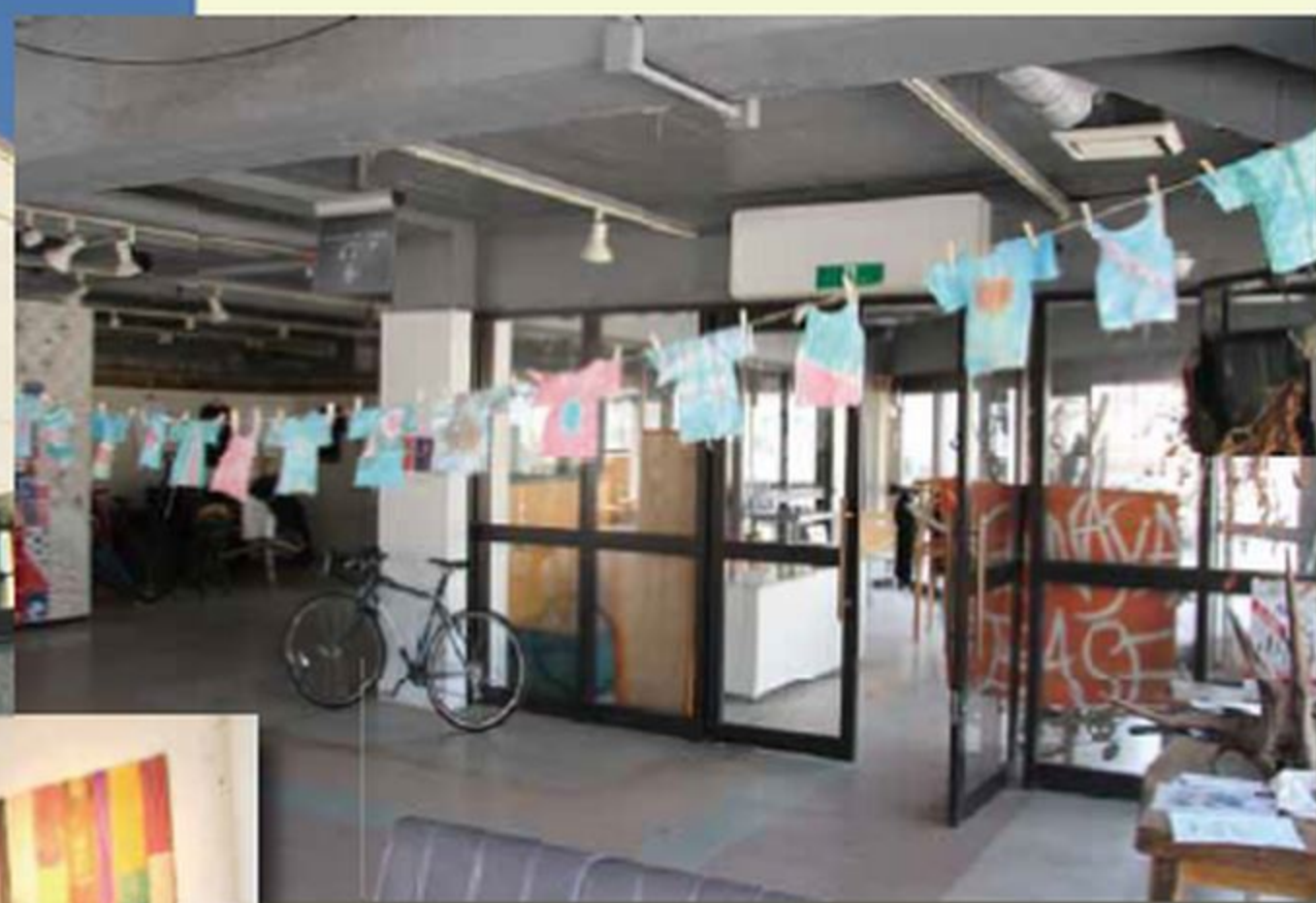
を求めてVol.10

若者が流出し、住民の高齢化が問題になっている地域ってたくさんあるけど、それを解決するために頑張ってる人もたくさんいるよ。今日はそのひとつ、千葉県富津市、鋸山のふもと、三浦半島とを結ぶフェリーポート乗り場の近くにあるオシャレな建物「KANAYA BASE」におじゃましています。町の良さを活かしながら、住民と移住者が一緒に町を盛り上げる…これはFun for Lifeが見つかる予感!!

早速お話を聞いてみよーっと♪

PKAN

KANAYA BASE
KANAYA ART PROJECT



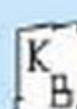
KANAYA BASE
KANAYA ART PROJECT

ピーくん 😊 「金谷の表玄関のような場所なのに、ここは何にも使われていなかったんです。こんな古びた風景じゃ、いくら町おこしを頑張っても、活性化されてるようには見えませんよね。」と金子さんと西田さん。約2年前金谷へ移住し、10年も放置されていた旧ホテルを自分たちの手でリノベーションして町づくりの拠点に再生させたプロジェクトメンバーのお2人だよ。ところでKANAYA BASEってどんなことができるの？

金子さん & 西田さん  活動の場を求めるアーティストやクリエイターたちの拠点、シェアアトリエ&コワーキングスペースです。この1年は、他の地域の人に金谷の良さを知ってもらうための活動に力を入れてきたのもあって、都会のアクティブで感度が高い方が興味をもってくださり、現在20組ほどが活動しています。



町の人たちの反応はどうですか？

 KANAYA BASEの目的は「町づくりの拠点」なので、地元の方が盛り上がりつつ楽しんでいただくことが重要です。でも、この地域は若者がどんどん都



インタビューした人 プロフィール



●金子愛さん NPO KANAYA 副理事長

高校生までを茨城県大洗町で過ごす。当時は東京に
出たくて仕方なかったが、東京でたくさんの人に大洗を
褒められたことで、地元の良さに気付く。田舎を好きに
なれなかった理由を、生き方の選択肢の少なさだったと
感じ、色んな生き方を考えられる機会が地元にあったなら
もっと違っていたのではとコミュニティづくりに関心を
もつ。縁あって、現在は金谷の町おこしに携わっている。



●西田直人さん NPO KANAYA 事務局長

東京生まれの東京育ち。大学卒業後、デザイン関連の
仕事をする中で、消費者の顔が直接見えないマスの仕事に
なんとなく違和感を抱く。休日はボランティアワークに
携わり、相手と直接ふれあう経験の中でその想いを一層
強くしている中で、「石と芸術のまち」金谷と出会う。田舎
暮らしへの憧れと、デザインワークで地域活性に携われる
金谷の良さを感じ、様々な活動に取り組んでいる。

会に出てしまう町だったのに、いきなり
都会から若者が来て、何かを始めている：
地元の方から見たら不思議でならなかつ
たようです(笑)。なので、プラン云々よ
りも、まず私たちが町に溶け込むことが
必要だと思い、地域のお祭りや小学校の
運動会などには積極的に参加して、だん
だんと訪れてくれる人も増えてきまし
た。先日、老人会のお茶会をした際、
「昔ホテルだったときに、ここで結婚式
を挙げたのよ」と懐かしそうにお話して
くれたんです。今週末には海が一望でき
る庭で結婚式もあるのですが、様々な理
由で色んな人がここに足を踏み入れても
らえるような場所になればと思っています。
😊 地元の人が何を望んでいるのか、ど
うしたら喜んでくれるのか、それを探る
のはとっても難しいよね。

K 私たちとの個人的なつながりはでき
ても、イベントに来てもらうのはまだ
ハードルが高いですね。ここは誰でも自
由に使ってもらいたいと思っています
が、KANAYA BASEをよく知らない
人は、自由にと言われてもどう楽しん
でいいのか分からないみたいなので、

もつとこちらから提案をしていかないとダメですね。例えば、この辺りは映画館がないのでDVDを持ち込んでプライベート映画館とか、BBQはどうですか？とか色々な角度でアプローチしたり、子ども向けワークショップの企画や企業・観光協会さんとのコラボイベントなどを開催したりしています。

😊 手ごたえは感じてますか？

KB 少しずつですが、実感しています。いちおうアトリエという名目ですが、本来の目的である「町づくりの拠点」というコンセプトからずれていなければ、興味のある方はどなたでも使っていただけるようにしていますので、現在は、アーティストだけでなく、デザイナーやサブオフィスとして仕事をしたり、NPO法人さんもいます。色々なジャンルの人が集まることでの相乗作用にも期待していて、次にどんなものが生まれるのか楽しみですね。

😊 KANAYA BASEがなかったら出会わなかったかも、という人との出会いがあるんですね。

KB 全くそうで、東京にいる時はイベントを企画したりもしていたので、色々なジャンルの人と会っていたつもりでしたが、同じイベントで会う人や会社で知り合う人は、結局は思考の似ている人だったんですね。ここに来て、全く価値観の違う人たちと出会う機会があつて、自分のキャパがどんどん広がっていくのが分かります。金谷に移住して、おばあちゃんからご飯のつくり方や作物の育て方などの「生活の知恵」をたくさん教えてもらつて、町を元気にしていくのと同時に、大切なものを守っていく大切さを学びました。

😊 KANAYA BASEの目指すべき姿は？

KB 金谷の町を好きになってくれた人が訪れて、町の人は金谷の良さをどんどん伝えていく、その橋渡しが出来るように、町の人と外の人のハブとして、KANAYA BASEは機能していくべきだと思っています。また、金谷を気に入ってもらつても、仕事がないから移住が難しいという人も多いので、100%成り立たせるのは難しいですが、ここで仕事が生み出せて、生活の足しになるくらい

のお金を得られるようなことも考えていきたいと思っています。

😊 最後に、2020年の夢、Future「夢」をお願いします！

KB KANAYA BASEの運営自体を町の人が行うようになれば、町の魅力がもつと外の人に伝わると思うし、皆さんが持っている生活の知恵や伝統を、さらに生かせる場所にしていきたいなと思っています。そして、全国にKANAYA BASEのような〇〇BASEが出来て、互いに連携しながら日本中が盛り上がったっていったらいいなと思います！

😊 自分の故郷に〇〇BASEができたら嬉しいカモ！金子さん、西田さん、貴重なお話ありがとうございました！





KANAYA BASE
KANAYA ART PROJECT

supported by



**KANAYA BASEで
活動する方々を紹介**



●永澤さん

●KANAYA BASEとの出会い

家具づくりで独立を考えていましたが、地元で作業場の確保に苦労していた時にこの存在を知りました。景色も環境もとても刺激になります。ほとんどがオーダーメイドで、お客様が喜んでもらえるものをイチから作っています。

●あなたにとって KANAYA BASEとは?
刺激的な場所ですね。

★海の家具屋 umikagu
<http://www.umikagu.jp/>



●細井さん

●KANAYA BASEとの出会い

お正月に家族旅行で前の道を通ったとき、この建物がとても印象に残って、検索してみたらとても面白そう。東京で会社をしているんですが、週に何回か来たらなあという思いで一度合宿に参加して、気づいたら移住していました(笑)。発想のためというより力を抜くタイミングというか、都内だとタバコもベランダのはじっこで小さくなって吸っていましたが、ここではタバコも空気も思いっきり吸えて、本当に良い環境ですね。

●あなたにとって KANAYA BASEとは?
一言で言うと「豊穣」です。



●榎本さん

●KANAYA BASEとの出会い

大学時代に取り組んでいた彫刻を卒業後も続けていくための場所を探していたとき、友人に偶然誘われたイベントでアトリエがオープンすることを知りました。実家がすぐ近くなので、実家に戻り、仕事と両立しながら作品づくりを続けています。

●あなたにとって KANAYA BASEとは?

変な人が集まる場所(笑)。悪い意味じゃなくて、芸術家は変人奇人っていうくらい、年齢も考え方もバラバラの人たちが来るので、本当に勉強になってます。

★鋸山の山頂にある石のポストは榎本さんの作品。その名も「シャロン・ポストン」。このポストから投函すると、金谷郵便局の風景印を押印してもらえる。



●小川さん

●KANAYA BASEとの出会い

最初にここを訪れたのは一昨年の11月頃。別のプロジェクトでこの一部を使って子どもたちの絵を展示する企画でした。大学3年の時、将来の道がまだ決めきれずに休学を選択したのですが、その際ここを思い出して、仲間に入れてもらい、イベントのお手伝いなどをしてきました。ここで色々な人に出会って刺激を受けて、この4月からまた復学して平日は東京、週末はここで製作活動をしています。田舎暮らしは初めてで最初はとまどったけど、今は誰よりも落ち着きまくってます。

●あなたにとって KANAYA BASEとは?

大人の遊び場。真実に仕事をしながら遊び心もあって、ビリビリした人もないし、みなさん遊ぶように仕事をしているな、って思います。

「それは、神様がくれた プレシャスな時間です。」



キヨポンさん
(千葉県松戸市在住)

She's a Fan

楽しみのヒント、
みつけたっ

——プロフィールを教えてください。

出身は福島県いわき市で実家はスパリゾートハワイアンズの近くです。厳格な両親と1男2女の次女として育ちました。子供の頃の習い事は、定番のピアノとお習字。中学生の時には科学に興味を抱き「高専」に進学しようと真剣に考えたこともありましたが、でも結局、親の意見に従うような形で地元の進学校に進むこととなりました(笑)

——高校に進学してからは？

毎日始発に乗り学校に行って勉強をしていました。高校2年の時には琉球文化に強く惹かれ、受験勉強と合わせて琉球語の文献を何冊も読み漁っていました。沖縄の観光産業について研究したいとも考えていましたが、東北の県立大学に進学し「総合政策」について学ぶことにしました。しかし、私自身の人生観と少しずつ歯車が噛み合わなくなつて、大学を飛び出し思い切ってビジネスの世界に入りました。

——お仕事について教えてください。

最初は、地元の不動産業で、仕入れた物件をリプログラミングして販売する会社でした。レイアウトをコンピューター設計する「CAD」は、独学でマスターしました。時には朝から真夜中までCADに張り付きっぱなし、そこでは仕事の厳しさを学びましたね。そして、自分自身のステップアップのためと思い切って上京しました。現在は国内のみならず台湾・上海・タイに工場を持ち「安全で優れた容器の美」を理念に掲げる会社で働いています。事務職としての採用でしたが、営業をやらせてほしいと申し出て、現在は営業の第二線で働いています。仕事内容は、化粧品を入れる容器やパッケージの製作企画で、商品をよりドレッシーに引き立たせるデザインを担当しています。



——なかなか大変な仕事ですね。

クライアント様の要望をお聞きしてデザインするのはもちろんですが、商品に命を吹き込み輝きを増すには、消費者からは見えないところで働く職人さんの「チカラ」が必要です。時に難しい注文もあります。この方たちの創意工夫が私とクライアント様とを支えてくれます。でも仕事で一番大変だったのは、上京してからの2か月間、田舎町では駅前にはデパートもコンビニも1つです。だから目印になるのに東京はどの駅に降りても同じお店がありますよね、方向音痴でしたから慣れるまで大変でした。(笑)

——ご趣味について、お聞かせください。

ズバリ仕事です。大変ですけども、仕事を通じて色々な方との出会いがあります。それが、今を生きているという実感や日々の充足感に繋がっていますから。この度の震災では私の故郷、福島県の浜通り地方も大きな被害を受け、悲しい知らせをいくつも聞きました。だから、生きていれば何でもできると思うのです。

思い通りに行かないことがあったとしても「成せばなる」の東北魂です。今、私の中の楽しみは、たくさんの方々と関わって、繋がって、そんな中で、多くを学び、そして恋愛も。私の周りで人の輪が広がっていくことに喜びを感じます。

——順風満帆の時もあればそうでない時もありますよね、そんな時には？

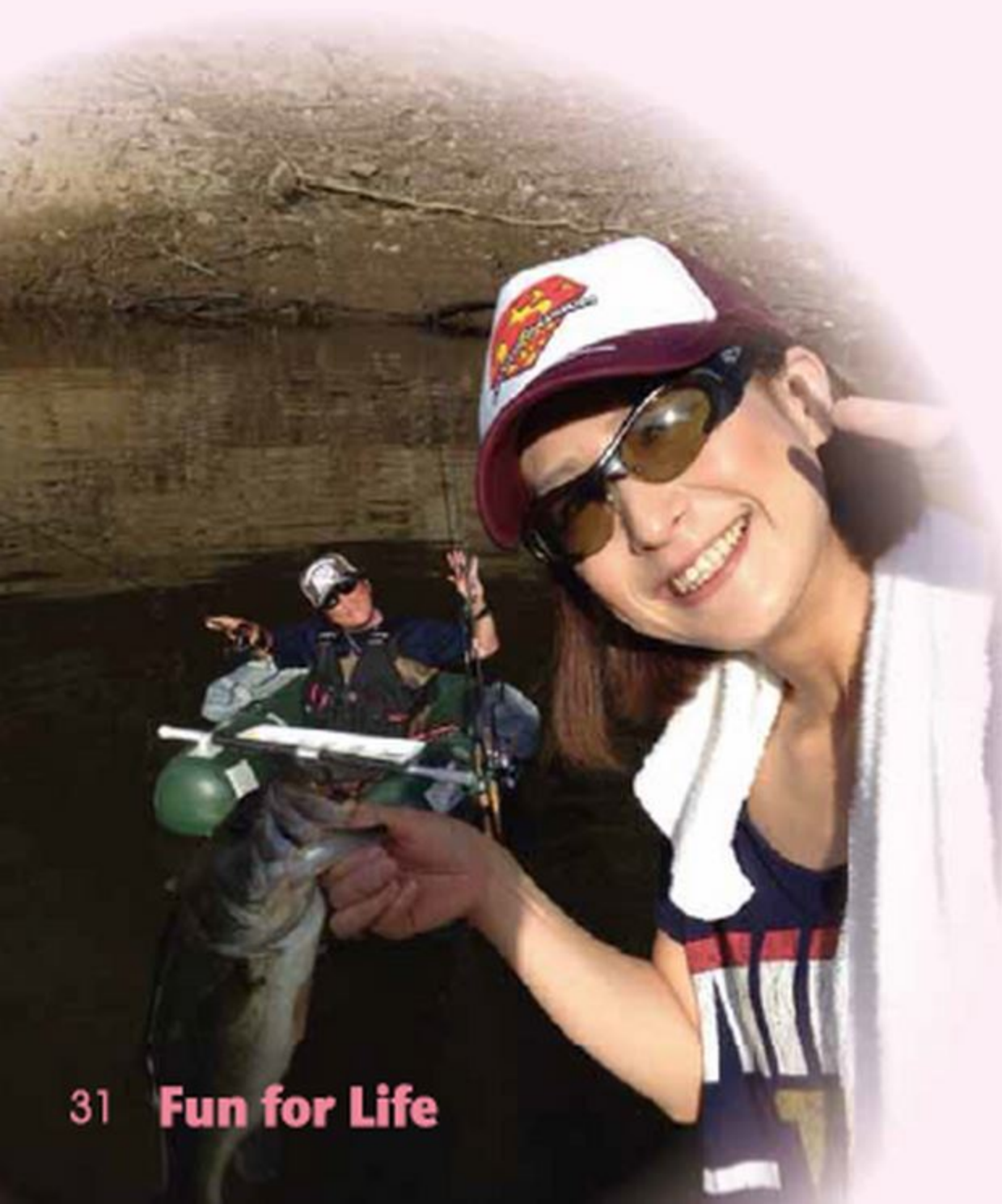
そうですね、年に2〜3回ですが、仕事や私生活でマイナスのリズムを刻んだ時に、独りで考え事をしたいけれども、独りで考え込むのも寂しすぎて嫌だなあという時があります。そんな時には気分転換のためにパチンコホールに出かけます。遊技台のことは詳しくはわからないので、可愛いキャラクターの台を選び、投資金額を決めてプレイします。でも不思議なことに、心が沈みがちなときのほうがラッキーに恵まれます。「きっと、楽しい時間を神様がプレゼントしてくれているんだ」そう思うと晴れやかな気分になりますね。最近では、厳格だった父と母も子供たちが巣立って少し寂しいらしく、時々近所のホールへ遊びに行くらしいです。

少し前に体調を崩した母ですが、夫婦仲良くいつまでも元気でいてもらいたいですね。

——パチンコの魅力を一言でお願いできますか？

東北の電車は終電に近づくと、1人しか乗っていないなんてことは良くあります。「ねえ」と声をかける人もいないんです。(笑) でも、パチンコホールにはたくさんの方がいます。人と人を繋ぐ楽しい場所は、寂しさを紛らわすコミュニケーションとしての魅力に溢れていますね。

——今日はありがとうございました。





P Garden

PROJECT TO MAKE THE FARM ON THE ROOF

ミツバチの生態系を守り、都市と環境の共生を目指す「銀座ミツバチプロジェクト」に賛同し、ピーアーク銀座ネオ屋上にPガーデンを作りました。ミツバチが安心して受粉出来る環境を整えるとともに、苗植え、収穫等を通して様々な人々との交流も生まれています。



7月13日 はれ

銀座ネオの屋上にPガーデンができました。まださみしい感じだけど、たくさん育てて、ミツバチたちが喜んでくれるPガーデンにするぞー！

8月5日 はれ

銀座ミツバチプロジェクトで仲良くなった皆さんが、Pガーデンにハーブを植えてくれました。庭の成長と共に、人とのつながりも増えてきて、なんだか楽しくなってきた！！



4月23日 はれ

福島県須賀川市から「ミス牡丹」の皆さんが来てくれた。須賀川市さんは銀座ミツバチプロジェクトの仲間で、ミツバチさんが喜ぶ苗をPガーデンに提供してもらってるんだ。今度は美味しい物が出来る苗をくれるんだって！！

6月5日 はれ

美味しい物ってお願いしたら、きゅうりの苗を植えてくれたよ！棒と網も付けてもらって、だんだんと本格的な農園って感じになってきた！作業の間、ミツバチさんも飛んできたよ。



8月9日 はれ

今日は茶豆の収穫日。こんなにいっぱい採れた！Pガーデンのお世話をしてくれてるみんなと食べたよ。プチプチで美味しかったあー！！

ピーくん奮闘記

ゆるキャラ
への道

近年ブームの波に乗り(!?)、年に一度のゆるキャラのお祭り「ゆるキャラグランプリ」にピーくんもエントリーしました。たくさんの人にピーアークを知ってもらい、ピーくんを応援してもらうため、約2か月にわたって奮闘した記録です。

じゅんぴが
カンジン!

9月上旬:
ポスターやチラシ
作りに奮闘!

9/17:
投票スタート!

社員はもちろん、
お客様やファンの方
々にも呼びかけます!

Facebookや
ブログでも!

ばくに投票を
お願いですー!!

街頭演説っ!?

思うように票が入らず
うなだれる日々...

ちゃっかり
アピールも忘れない

同じように頑張る
ゆるキャラたちがいる
アンテナショップを
訪問し元気をもらう

1人だけ
ゆるキャラグランプリの
宣伝をするピーくん(笑)

10/23:
ピーくんPlaza
オープン

やきとり
食べるでよ

人気者になる
ヒケツは?

11/3:
地域のお祭りで
最後のアピール

竹の塚
カリン収穫祭

10/26:
昨年のグランプリ、
バリィさんに会う!

10/27:
高円寺フェスで、
にしこくと
ダンシング!

1票
よろしくう~♪

結果や
如何にっ!?



ピーパーク北綾瀬 & 北綾瀬ネクスストグランドオープン

6月29日(土)、ピーパーク綾瀬向かいに2店舗がオープンしました。パチンコ館のピーパーク北綾瀬は、分煙ボード、香りの演出など快適環境を追求。隣接するスロット館の北綾瀬ネクストは、最新設備を備え増築いたしました。また、会員カードを使って自身の遊技プロセスをチェック出来る「プレイサポ君」を使った、新たな遊び方の提案にもトライアルしています。



エールランin国立競技場に 12名が参加しました。

9月4日(水)、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本のチャリティラン・イベント「第3回エールランin国立競技場」にピーパークより12名が参加しました。前回の2倍以上となる853名のランナーと一緒に、世界大会を目指し練習に励むアスリートへ想いを届けながら国立競技場をランニングしました。今回の収益金は、2013年11月にオーストラリアで開催された「2013年スペシャルオリンピックスアジア太平洋大会」の日本選手団派遣費用などに活用されました。ピーパークグループは、これからもスペシャルオリンピックスと頑張るアスリートを応援いたします。



足立消防署から 感謝状を頂きました。

積極的に救命講習を推進した事業所に対して、足立消防署から感謝の意を表し、感謝状を頂きました。ピーパークでは、全店にAEDを設置し、入社研修等で普通救命講習を積極的に受講しています。



6月

庄司副社長が日遊協会長に就任
(6月13日) ↓ P 24

ピーパーク北綾瀬 & 北綾瀬ネクスストグランドオープン
(6月29日)



9月

救急業務協力者感謝状を頂きました
(9月9日)

10月

10月入社式
3名がピーパークに仲間入り(10月1日)
2014年度内定式(10月8日)



ピーくんPlazaオープン
(10月23日) ↓ P 10



PARK DREAM

今号の考案者

映画・テレビ・ゲーム、3Dが当たり前の時代にパチンコに関しては、3Dといっても画面上の演出のみ。そんな中、こんなパチンコ台があるとおもしろいな!と考えたのが、本当に飛び出すパチンコです。

あたかも画面から魚が飛び出したりキャラクターが飛び出すようなバーチャルリアリティな体験ができるパチンコ台があれば、遊び方もいろいろ増えるし、今までパチンコをしなかった人にも注目されるかもしれない、という想いで考えました。

林 信次(H13入社)

編集後記

「学生時代に何を学びましたか？」

就活面接時に聞かれることが多い質問のひとつ。私自身で言えば、専攻した学業内容よりも学生生活での様々な体験から学んだことを話したと記憶しています。実際に社会に出てみても、難解な方程式や複雑な熟語よりも、四則演算の使い方やより伝わりやすい伝え方を考える機会が多く、それも学生時代の影響だと思っています。今回の対談ゲスト、NPOカタリバさんの活動はそういった体験から学ぶ“場”をつくることで、学業だけでは得られない多くの“学び”の機会を子どもたちに与えているのだと知りました。また、子どもたちの取り組む姿勢を見ることで周りの大人たちも変わってきたとも伺い、その“場”が与えるのは世代も超えるものだと感じました。

最近、社会人の学び直しが注目されており、生涯学習センターや大人の家庭教師といった新しい“学びの場”も登場しています。何かを求め挑戦して学んでいくことは、年齢や所属先・ポジションに関係なく大切な行動なのでしょう。ピーアークは今後も、挑戦と学びを繰り返して「世の中を楽しくすること」を追求してまいります。

<編集長 奥谷 洋章>

地域のお祭りで華麗な演舞を披露!

11/3

カリン収穫祭
(足立区・竹ノ塚駅)
ソーラン節を披露

↓
P
23



11/4

草加ふささらまつり
(草加市・松原団地駅)
よさこいを披露



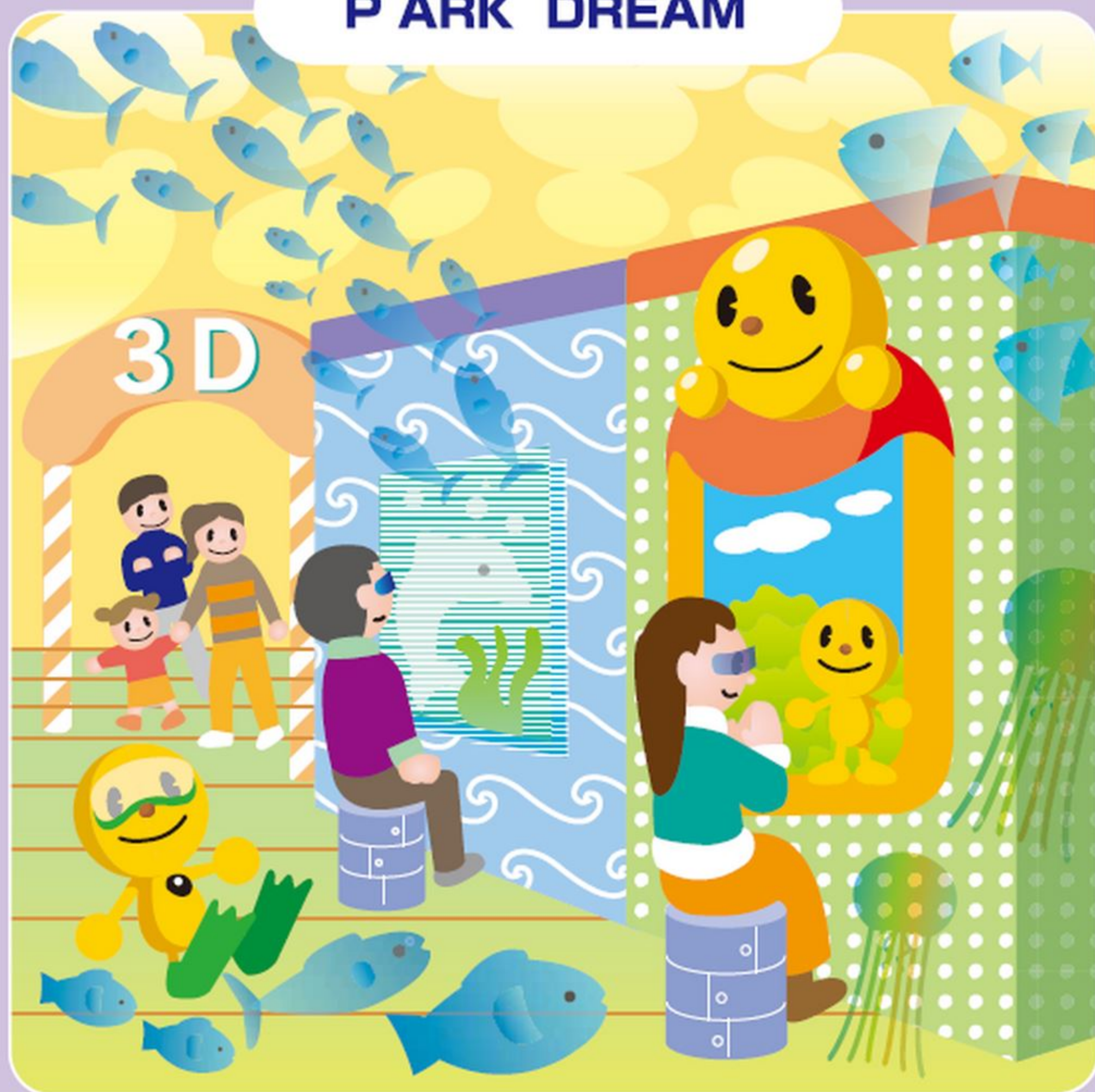
11月

ゆるキャラさみっとin羽生にピーくん参加
(11月23日~24日)



高円寺フェスにピーくん参加(10月27日)

PARK DREAM



3Dバーチャルパチンコ

未来のパチンコは、キャラクターがパチンコ台を越えて、飛び出します！海をテーマにした機種では、自分のまわりを魚達がグルグル回り、まるで自分が海の中にいるみたい。漫画をテーマにした機種では、気づけばキャラクターが隣にいて、自分が主役！？知らず知らずのうちに、ハンドルを握るのも忘れて一緒に戦っちゃうようなリアルな世界観。夢だけど、近い将来実現するかも？

エンタメ巨人  ピーアーク

ワタシたちの仕事は世の中を楽しくすること

Fun for Life

<http://www.p-ark.co.jp>

PARK